

吉村剛先生の生物劣化にはじまる多大なご功績を偲んで

神原広平（生物劣化研究会代表幹事、森林総合研究所）

馬場庸介（生物劣化研究会会計幹事、住化エンバイロメンタルサイエンス）

令和3年5月18日に吉村剛先生（元京都大学生存圏研究所教授）ご逝去されました。吉村先生とご縁のある方々は耳を疑う訃報であったと思います。皆様ご存知のように吉村先生は日本木材学会の保存部門において、シロアリや乾材害虫などをはじめとする木材劣化生物に関する研究をリードしてこられました。生物劣化研究会では、吉村先生の残された多大なご功績を偲び、令和4年3月23日に春季生物劣化研究会をZoomによるオンライン形式で開催しました。研究会へは会員以外にも多くの方々からお申込を頂き、その数は約150名にのぼり、年度末のお忙しい時期でしたが、常時およそ130名が4名の先生方からのご講演に耳を傾けられていました。

ご講演は、まず京都大学名誉教授の今村先生より「吉村剛先生の研究と教育への想い」と題して吉村先生の京都大学での足跡を辿って頂きながら、続く3名の先生方のご講演についてご紹介頂きました。続いて、長崎大学大学院水産・環境科学総合研究科の井上先生より「シロアリのセルロース分解系：吉村剛先生の功績とその後の展開」と題して、吉村先生の学位論文に始まる研究テーマであるイエシロアリのセルロース分解における腸内原生生物相の寄与に関してご講演頂きました。次に生存圏研究所の前身である木材研究所で吉村先生と机を並べられ長年のご友人である、富山県農林水産総合技術センター木材研究所の栗崎先生よりご講演頂きました。多くの聴講者をご存知なかったと思われる数々の写真やエピソードから栗崎先生と吉村先生の親しい間柄が伝わってきました。最後は、吉村先生の教え子のお一人で現在はシロアリ防除薬剤の研究開発に従事される、三井化学アグロ株式会社の川口先生より、学生時代に取り組みされていたシロアリ・共生微生物によるバイオガス生産の効率化に関するご研究、吉村先生とご一緒されたアメリカカンザイシロアリの被害・生態調査、東南アジアでのシロアリ多様性調査についてご講演頂きました。

ご親交の深い先生方からの講演を通して、吉村先生が国内外の研究者と共に基礎と応用をつなぐ数多くのご研究に取り組みされてこられたことを振り返ることができました。研究会で取り上げることができたご研究は、吉村先生が残された多くのご功績のほんの一部ですが、今後の生物劣化研究へ少しでも繋げることができたのであれば、幹事一同とても嬉しく思います。また、吉村先生にも喜んで頂けたらと願うばかりです。

吉村先生、どうぞ安らかにお休みください。



第12回環太平洋シロアリ学会大会での吉村先生と筆者（馬場）